

2023年度版(2023年5月1日~2024年4月30日)

# 環境経営レポート



第15版 2024年7月9日作成

# 目次

【1】環境経営方針	1
【2】組織の概要	2
【3】富永事業組織図	3
【4】環境経営目標	4
【5】環境経営目標の実績と評価	5
【6】環境経営目標の実績グラフ	6
【7】環境経営計画・取組内容・結果	7
【8】環境経営計画の報告	8
【9】2024年度 環境経営計画	9
【10】防災訓練	10
【11】地域貢献活動	11
【12】環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 環境関連法規への違反・訴訟等の有無	12
【13】総合評価	13



※ 本店社屋 ※

# 環境経営方針

## 基本理念

私たちは浄化槽維持管理の事業活動を通し、社員一人一人が企業としての社会的責任を認識し、環境への意識を互いに高め、地域の水環境を「水のプロフェッショナル」として守ります。

## 基本方針

当社は自社の事業活動に基づいた環境経営システムを構築し、環境の維持と継続的改善を制約します。

- 1) 化石燃料・電力等のエネルギー消費を可能な限り削減し、CO2排出低減を目指します。
- 2) Reduce, Reuse, Recycleの3Rを実践し、廃棄物の排出量を削減します。
- 3) 地域の水環境保全を常に意識し、資源の有効活用に努めます。
- 4) 環境関連法規等を遵守します。
- 5) 社員自らが積極的に情報を収集し、考え、動く。  
人に「してもらう」のではなく、自ら「する」自主性を大事にします。
- 6) 顧客へ浄化槽維持管理の必要性を対話と図を用いて説明することに努めます。
- 7) 災害時におけるトイレ問題について行政と協力し市民の自助活動への支援に努めます。
- 8) 社員の人材育成に注力します。
- 9) 環境経営の継続的改善を行います。
- 10) この環境方針は社内に掲示し、全社員に周知させ環境活動レポートを作成し社外へも公表します。

制定日：平成21年2月1日

第五回改定日：令和 3年9月4日



株式会社 富永事業

代表取締役 山本 麻美

# 組織の概要

**事業所名** 株式会社 富永事業 2024年5月31日現在

**代表者名** 代表取締役 山本 麻美

**所在地** 本店:島田市中河町8969-4  
初倉支店:島田市中河846-1

**設立年月日** 昭和36年6月1日 創立 資本金: 500万円  
昭和63年6月1日 法人化

**EA21認証登録日** 平成21年9月16日

**環境管理責任者** ・石垣 圭悟  
**環境管理事務局** ・森永 宏  
・連絡先 (0547) 36-6755  
・E-mail info@tominaga-jigyo.co.jp  
・URL: <http://www.tominaga-jigyo.co.jp>

## 事業内容

### 1) 浄化槽維持管理業

・浄化槽保守点検業

登録番号 63第353号

登録有効期間 令和3年12月16日から令和6年12月15日まで

・浄化槽清掃業

島都下第 524号

許可期間 令和5年7月1日から令和7年6月30日まで

### 2) 一般廃棄物処理業

・し尿・浄化槽汚泥 収集運搬

島都下第 523号

許可期間 令和5年7月1日から令和7年6月30日まで

### 3) 建築物飲料水貯水槽清掃業

登録番号 静岡県17貯第3号

登録有効期間 令和5年6月23日から令和11年6月22日まで

## 事業規模

社員数: 31人

車両台数:

2.7t

1台

3.0t

6台

3.3t

1台

軽自動車

12台

バキューム車

点検車

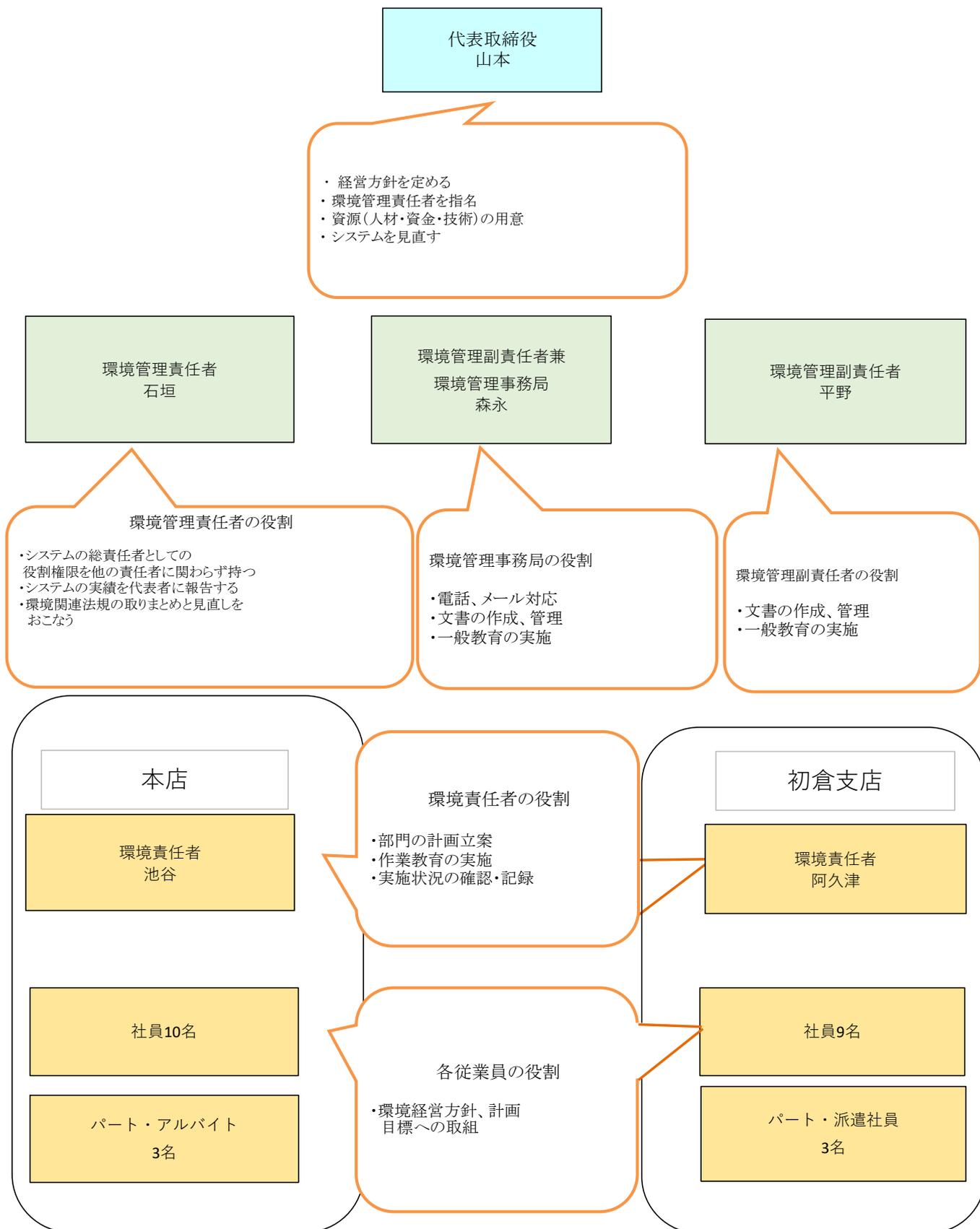
**事務所床面積** 本店: 892.22㎡ 初倉支店:212.34㎡

**一般廃棄物処理量** 2023年度実績 13,277㎡(浄化槽汚泥・汲み取りし尿の合計)  
(2023年5月1日～2024年4月30日)

**主要取引先** 島田市立総合医療センター(旧島田市民病院) 月坂団地污水処理場  
医師住宅 バラの丘公園 看護学校  
特別養護老人ホーム ぎんもくせい  
特別養護老人ホーム あすか 他多数

# 富永事業 組織図

2024年5月31日現在



○エコアクション21の取り組みは全組織・全社員が対象である

# 中長期 環境経営目標

項目	単位	2022年度 実績 (基準)	2023年度 目標 基準比 -1%	2024年度 目標 基準比 -2%	2025年度 目標 基準比 -3%	2026年度 目標 基準比 -4%	2027年度 目標 基準比 -5%	
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	94,732	93,785	92,837	91,890	90,943	89,995	
軽油	使用量	L	24,103	23,862	23,621	23,380	23,139	22,898
	指標	*	0.56	0.56	0.57	0.58	0.59	0.60
ガソリン	L	7,270	7,197	7,125	7,052	6,979	6,907	
電力	kWh	34,465	34,120	33,776	33,431	33,086	32,742	
LPG	m <sup>3</sup>	16	16	16	16	15	15	
廃棄物	事業	kg	3,190	3,158	3,126	3,094	3,062	3,031
	産廃	kg	3,810	3,772	3,734	3,696	3,658	3,620
水の使用量	m <sup>3</sup>	419	415	411	406	402	398	
収集運搬料	m <sup>3</sup>	13,234	13,102	12,969	12,837	12,705	12,572	

- 2009年9月1日より島田本店と初倉支店の両店舗にて営業を開始
- 数値は島田本店(横井)・初倉支店の合計値
- 購入電力による二酸化炭素排出係数は  
- 2019年度実績 - 2021.3.7環境省・経済産業省公表の  
中部電力 ミライズ(株)(旧中部電力)0.452(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用する。
- 軽油欄の指標(\*)とはバキュームカーの汚泥運搬量を軽油使用量で  
除したもの(数値が大きいほど運搬効率が良い)  
※指標計算式: 浄化槽汚泥・汲み取りし尿の合計(m<sup>3</sup>)/軽油使用量(l)
- LPG及び産業廃棄物は容積管理(LPG比重:2.07,混合廃棄物比重:0.26使用)

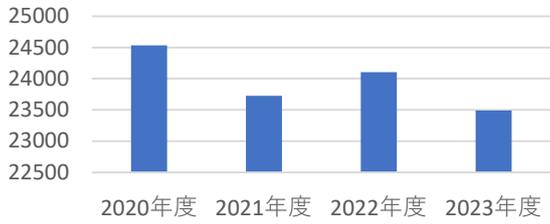
# 環境経営目標の実績と評価

項目		単位	2022年度 実績(基準)	2023年度 目標基準比 -1%	2023年度 実績	目標対 実績比	評価
二酸化炭素排出量		kg-CO <sub>2</sub>	94,732	93,785	96,084	102%	×
軽油	使用量	L	24,103	23,862	23,490	98%	○
	指標	*	0.56	0.57	0.56	99%	○
ガソリン		L	7,270	7,197	8,076	112%	×
電力		kWh	34,465	34,120	36,779	108%	×
LPG		m <sup>3</sup>	16	16	19	121%	×
廃棄物	事業	kg	3,190	3,158	3,230	102%	×
	産廃	kg	3,810	3,772	3,810	101%	×
水の使用量		m <sup>3</sup>	419	415	473	114%	×
収集運搬量		m <sup>3</sup>	13,234		13,277		

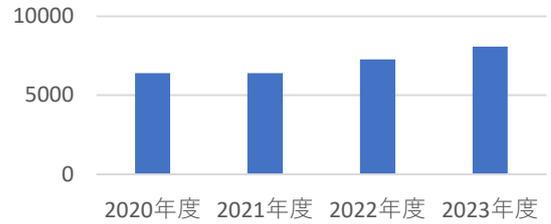
- 2009年9月1日より島田本店と初倉支店の両店舗にて営業を開始
- 数値は島田本店・初倉支店の合計値
- 購入電力による二酸化炭素排出係数は  
-2019年度実績-2021.3.7環境省・経済産業省公表の  
中部電力 ミライズ(株)(旧中部電力)0.452(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用する。
- 軽油欄の指標(\*)とはバキュームカーの汚泥運搬量を軽油使用量で  
除したもの(数値が大きいほど運搬効率が良い)  
※指標計算式:浄化槽汚泥・汲み取りし尿の合計(m<sup>3</sup>)/軽油使用量(ℓ)
- LPG及び産業廃棄物は容積管理(LPG比重:2.07,混合廃棄物比重:0.26使用)
- 一般廃棄物排出量については、可燃ごみのみを削減対象としている。

# 環境経営目標の実績グラフ

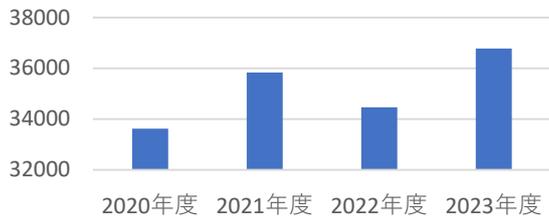
## 軽油使用量(L)



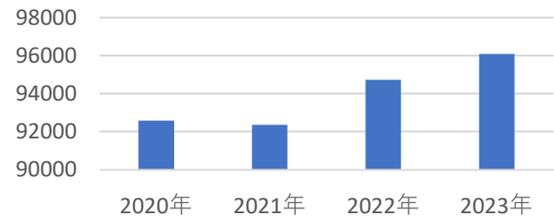
## ガソリン使用量(L)



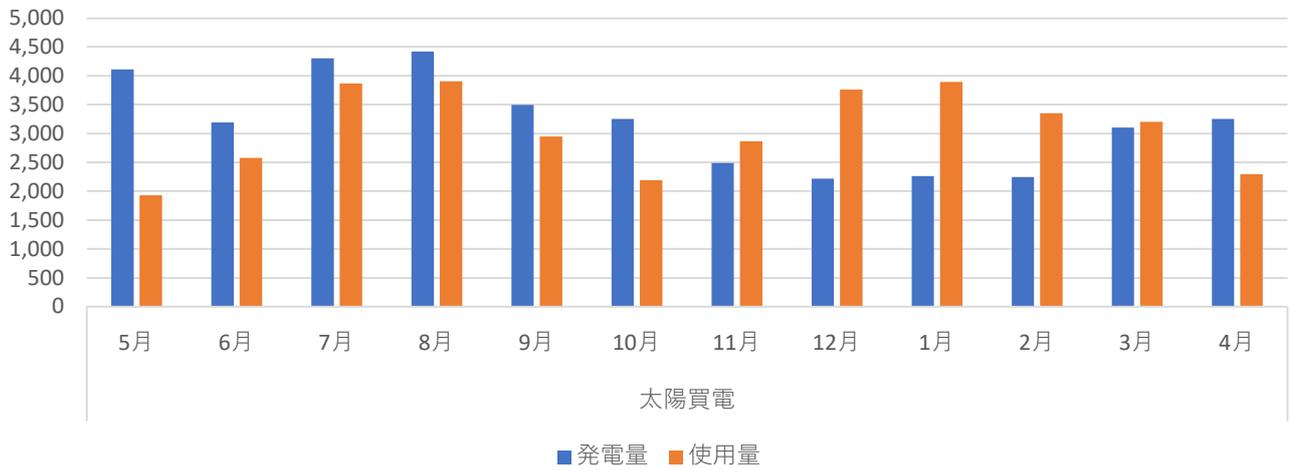
## 電気使用量(kw)



## 二酸化炭素排出量(kg-Co2)



## 太陽光2023年度



# 環境経営計画・取組内容・結果

2023年5月1日～2024年4月30日

取組目標	活動項目		取組結果
二酸化炭素排出量の削減	照明	使用していない部屋の消灯徹底	
	空調	エアコン設定温度上限を夏28℃・冬22℃にする	
		フィルターの定期清掃	
		使用していない部屋の空調停止	
		遮光対策	
	他設備	冷蔵庫の設定温度弱	
廃棄物排出量の削減	事務所	コピー用紙の両面使用	
		封筒の再利用	
		リデュース・リユースの実践	
		廃棄物の分別	
	現場	事業系・産廃系の分別	
		薬品・スプレー缶の中身を空にして廃棄	
水使用量	上水	節水表示	
		洗濯物をまとめて洗う	
		蛇口の水漏れチェック	
自主改善・提案の意識向上		新型バキューム車の導入	
		顧客に浄化槽維持管理の必要性について説明する	
		新入社員へのエコアクション教育の実施	

○ 活動項目は毎日全員が行う

# 環境経営計画の報告

評価・見直し者: 石垣 圭悟

作成日: 2024年6月18日

二酸化炭素排出の削減	主要対象	主な取組み内容
	①軽油	効率的なルートの策定と実施・エコドライブ
	②ガソリン	効率的なルートの策定の実施・エコドライブ
	③電力	空調の温度設定・遮光対策・衣類乾燥機の使用制限

## ●評価と見直し

①軽油使用量は目標対比98%と2%の削減ができました。今期は収集運搬量が前年対比118m<sup>3</sup>減少して軽油使用量は613Lの減少となりました。指標について0.56となっているため効率的な作業ができています。今後も継続して行っていきます。

②ガソリン使用量は目標対比112%と増加しています。前年対比806Lの増加です。主たる要因は業務量増加による休日出勤の増加と休日出勤対応者の増加し点検作業車の稼働が増加したためです。業務の状況に大きく左右されるため対策ができない状況ではあります。

③使用電力は目標対比108%と増加しています。その要因は昨今の夏の猛暑と長引く残暑で使用期間の増加が考えられます。現場作業員には熱中症対策として休憩時間中に十分な休息を取ってもらうため使用を控えることは難しいですが、PCの消し忘れや照明の消灯忘れ、晴れの日の衣類乾燥機使用など頻度は多くないもの見かける場面があるため、注意喚起をし無駄をなくしていきます。

・主要対象には含めていませんが、LPGが121%と増加しています。初倉店のみの使用しているもので、今期は社員の移動があり初倉店に勤務する従業員が増加していることが要因と思います。

廃棄物排出量の削減	主要対象	主な取組み内容
	①一般廃棄物	コピー用紙の両面使用・封筒の再利用
	②産業廃棄物	混合廃棄物の分別

## ●評価と見直し

①一般廃棄物は目標対比102%と僅かながら増加しています。日頃からコピー用紙の裏紙使用や封筒の再利用は行っております。今後はペーパーレス化が可能なものはレス化し、そもそもの使用量を減らすことで廃棄を減らせるのではと考えます。

②産業廃棄物は自社工事の増減やブロワやポンプの故障による廃棄は当社では操作が不能なため対策することは難しいですが、工事、修理等で出た混合廃棄物は今後も継続して分別を行ってまいります。

水使用量の削減	主要対象	主な取組み内容
	上水道	節水表示・洗濯物をまとめて洗う

## ●評価と見直し

①水道使用量は目標対比114%と14%増加で基準年比54m<sup>3</sup>の増加となりました。要因は1つで7月8月と気温が非常に高く、屋外休憩所の環境を改善するため、スプリンクラーで散水し地面の温度を下げることを行っていたことです。スプリンクラーで散水している期間には水道使用量がここまで増加しているとは気づく事ができませんでした。熱中症対策として効果がなかったわけではありませんが、使用量の増加幅を考えると検討が必要と思います。

自主改善・提案の意識向上	主な取組み内容
	①新型バキューム車の導入
	②維持管理の必要性を顧客に説明
	③新入社員へのEA教育実施

## ●評価と見直し

①新型バキューム車は2024年8月に納車予定です。これにより旧式のバキューム車が一新されます。当社ではバキューム車が一番の燃料使用と二酸化炭素排出量を排出して負荷をかける割合が高いので環境に配慮された車両の導入は価値の高いものとなると思います。

②この活動は毎年継続して行っておりますが、昨今の地震や水害もありそのような際の対応方法を問われることがありお客様の浄化槽への関心より高まったと実感しています。今後も継続していきます。

③新入社員の増加に伴い、EAの概要・現在までの経過等に加え、EAにおける防災訓練を実際の事例をあげ行っております。

# 2024年度 環境経営計画

取組目標	活動項目	
二酸化炭素排出量の削減	照明	使用していない部屋の消灯徹底
	空調	エアコン設定温度上限を夏28℃・冬22℃にする
		フィルターの定期清掃
		使用していない部屋の空調停止
		サーキュレーターの使用
	他設備	洗濯機は8割以上入れて運転する
		乾燥機も8割以上入れて運転する
		冷蔵庫に物を詰めすぎない
		冷蔵庫の設定温度弱
	廃棄物排出量の削減	事務所
封筒の再利用		
リデュース・リユースの実践		
廃棄物の分別		
現場		事業系・産廃系の分別
		薬品・スプレー缶の中身を空にして廃棄
水使用量	上水	節水表示
		洗濯物をまとめて洗う
		蛇口の水漏れチェック
自主改善・提案の意識向上	顧客に浄化槽維持管理の必要性について説明する	
	新入社員へのエコアクション教育の実施	

○ 活動項目は毎日全員が行う

# 防災訓練

訓練日:2023年10月19日

訓練場所:本店

参加者:全社員



## 実施した取組内容の実績と評価

いつ起こるか分からない地震や台風に対する減災対応と事後の動きをクイズを取り入れながら社員全員で学びました。

回答できない問題に対して解説を聞いて理解を深めました。

社長と相談役から災害について今一度考えるようにと呼びかけもあり有事の際に少しでも迅速な対応ができる心構えをしました。

また、当社業務において危険度の高い、酸欠及び硫化水素対策として当社現場での実例を挙げながら、検知器の使用方法や対処方を周知しました。

# 地域貢献活動報告

今年度は小学校4年生対象の環境教室を島田市・牧之原市の小学校をメインに計14校を対象に11回行いました。当社社員も参加しています。子供たちにも分かりやすいように、ゲーム等を行いながら水環境の保全について説明しました。また、今期は地元自治会への防災セミナーも行いました。新型コロナウイルス感染症も5類化され開催もしやすくなりました。今後も積極的に行ってまいります。



大きな災害で報道されることの少ないトイレ事情。現状は不衛生で悲惨な状況です。今年の1月には能登震災が発生しています。また南海トラフ地震も発生すると言われていています。当社の水質保全区域が災害にあった時に同じ事態に陥らない為に事前の準備が大切であると考ます。当社で「災害時のトイレ対策」という小冊子を作成し、ご家庭に配布を継続的に行っています。加えて、緊急時に使用できる災害時用トイレをお客様へお配りし防災意識の向上を目指しております。当社社長より全社員が災害対策のセミナーを受け、重要な内容を冊子と共に顧客にお伝えしています。また、次年度については違った形でお客様へ災害時の備えについてお伝えできればと考えております。



# 環境関連法規への違反・訴訟等の有無

## 1. 環境関連法規の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規（下記参照）の遵守状況を確認した結果違反はありませんでした。

確認日 2024年5月10日

確認者 環境管理責任者 石垣

適用対象	法規・条例・規制	適用内容	備考	遵守状況
浄化槽保守 点検業	浄化槽法	保守点検の技術上の基準	作業方法	○
		記録の保管	3年間保管	○
	静岡県浄化槽 保守点検業登録条例	浄化槽保守点検業の許可	3年毎更新	○
		帳簿備付	5年間保管	○
し尿・浄化槽汚泥 収集・運搬	廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	一般廃棄物の収集・運搬・処分等 の基準	2年毎更新	○
	浄化槽法 (平成17年改正法に基づく)	帳簿備付	5年間保管	○
浄化槽清掃業	島田市廃棄物の処理 及び清掃に関する条例	浄化槽清掃業の許可	2年毎更新	○
		清掃の技術上の基準	作業方法	○
		事業報告	毎月報告	○
建築物飲料水貯水 槽清掃業	建築物における衛生的環境の確 保に関する法律	建築物飲料水貯水槽清掃業登録証 明書 登録番号 静岡県17貯第3号	6年毎更新	○
	水道法	飲料水の水質検査 (自社簡易検査)		○
	建築基準法	建築物の衛生の見地からの規制	濁度測定	○
全般	廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	産業廃棄物の排出	委託契約マニフェスト管理 マニフェスト年間交付状況 報告(毎年6月末)	○
	浄化槽法	保守点検	定期点検	○
		清掃の実施	バキューム作業	○
		11条検査の実施	法定点検の実施	○
	消防法	防火対策	火の元の管理	○
	島田市環境基本条例	環境負荷低減、環境保全への努力		○
	道路運送車両法	車両安全性の確保、公害の防止 その他の環境保全	車両の点検整備の実施	○
フロン排出抑制法	規制対象の空調の管理	簡易点検	○	

業として遵守する法規

自社が遵守する法規

## 2. 違反、訴訟等の有無

過去3年間にわたって関連機関からの指摘、利害関係者からの訴訟及び住民等からの苦情もありませんでした。

# 総合評価

令和6年7月 9日

株式会社 富永事業  
代表取締役 山本 麻美

2019年に中国の武漢市で発見され、世界中をパニックに陥れた新型コロナウイルス感染症は2023年5月に感染症法において分類が2類から5類へ変更され、個人にとっても法人にとっても生活が大きく変わることとなりました。

国内の経済状況はその間、特に2021年より消費者物価指数は急激に上昇し、2020年を100とすると、2024年5月で108.1ポイント（総務省2020年基準消費者物価指数より）と近年稀にみない上昇値となりました。

毎日のように届く取引業者からの値上げ伝達にこれまで30年近く企業努力で維持し続けてきた浄化槽維持管理料金もついに見直しせざるを得ないフェーズを迎えることとなりました。未だとどまる様子を見せない物価上昇については従業員の確保や、新車両導入、IT関連費用物資調達などの問題と同時に解決していかなくてはならない問題です。今後はこれまで以上に顧客と向き合い、求められていることを経営者だけでなく職員全員が把握し、必要な対応をとっていきたいと思います。

また働き方においては、年々気温が上昇しており特に今年は35度を超えた日がすでに数日あり、業務を行う際の安全性についても管理職からの呼びかけに加えこれまで以上に各自が自覚し安全を確保していかなくてはなりません。今年環境活動計画ではほとんどのエネルギー使用量が昨年度より上回っていますが会社単位、部署単位、個人単位でそれぞれが必要なことを考えた結果であれば問題ないと考えます。

今後の見通しですが今年の秋には新型バキューム車両が入りエネルギーの軽減が期待できます。新入社員も数名おりますが、これまでのエコアクション活動を共有してもらい、職員全員でエコの意識を浸透させた日常生活を土台としていきたいと思います。